

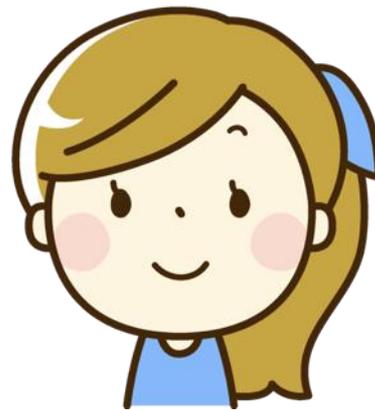
## 『食物アレルギー地域連携の会』

食物アレルギー児童は近年増加傾向にあり、園や学校等での集団生活をするにあたって食物アレルギーに対する色々な知識や対応が施設関係者に求められています。

2015年より西市民病院において「食物アレルギー児童に対する地域連携」を主題とした地域の多職種参加による会を開催しております。会において学校や保育施設などから挙げられた問題や疑問に対して、アレルギー専門医師や参加者からの回答と意見をまとめてパンフレットを作成してみました。少しでも食物アレルギー児童への支援に役立つことがあれば幸いです。

# 食物アレルギー児への対応

～こんなことが困るよね～



# こんなことに困っていませんか？

1. アレルギー症状が出た時の児の移動
2. 発達障害児のアレルギー症状の対応
3. アレルギー食品制限解除後のアレルギー症状
4. 少量ずつアレルギー食品を摂取している児
5. エピペン<sup>®</sup>を打つことや救急車を呼ぶことへの躊躇

・・・について多（他）職種で意見交換をしました

# 1.アレルギー症状が出た時の移動



症状が出た場所が好ましくない場所の場合、  
移動はどうしたらいい？

- 他の児童がたくさんいる
- 運びにくい場所にいる

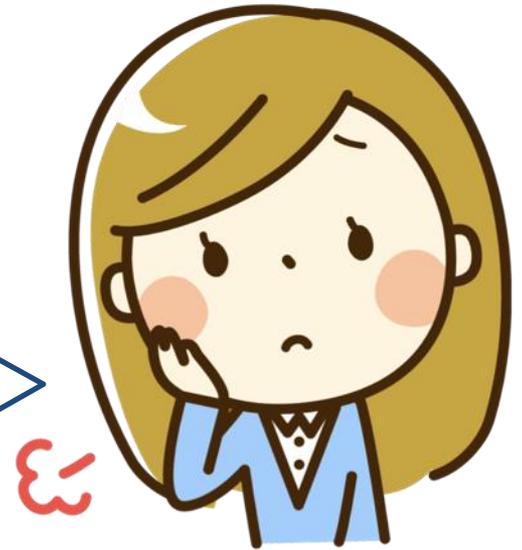
- なるべく**児を動かさず**周りの人を動かす
- 軽症なら歩いてもよいが、**必ず付きそう**
- 児を急がせない
- 中等症でどうしても動かす必要があれば**頭はあげず**  
横抱きor担架等を利用する
- 顔色が悪ければトイレに行きたがっても行かせない(漏らしても仕方ない)、トイレに入らせる場合は鍵をかけさせず、たえず様子を見る



## 2. 発達障害児の対応

発達障害があると児からの訴えがわかりにくく、  
症状の出現に気が付きにくい

- もともと偏食で普段の対応も難しい
- アトピー性皮膚炎や喘息があれば、皮膚のかゆみや咳が食物アレルギー症状なのか紛らわしい



- あやしいと思う症状には内服薬なども使って早めに対応する
- 一歩早めの対応になる可能性があるため、保護者や主治医と普段から対応の確認をしておく
- 普段からスキンケア、軟膏塗布、喘息治療を行いコントロール状態をよくして、なるべく紛らわしい症状が出ないようにする

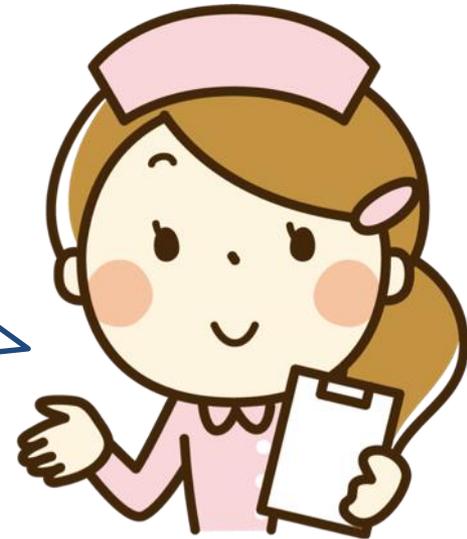
# 3.アレルギー食品の制限解除後のアレルギー症状



アレルギー食品の制限解除の指示が出たのにアレルギー症状が起きた

- 解除後は施設に指導表がなくなり、除去歴があったこともわからないので注意が必要である

- **体調により症状が出る可能性を考慮し安全のため、3ヶ月程度自宅で十分な量を摂取しても症状が出ないか確認してから施設での解除指示を出している**
- 施設側も解除後でも、摂取量や運動量が増えたり体調不良によって、**アレルギー症状が出る可能性が全くないわけではない**ことを留意しておく



# アレルギー食品の制限解除時の注意点

- **自宅での原因食物摂取状況を確認してから施設で制限解除する**
  - 施設で摂取する量を十分に超える量か
  - おかわりしても大丈夫か
  - 鶏卵であれば加熱が弱いもの（アイスクリーム等）が施設のメニューにないか
  - 同じものを食べているか
  - 摂取後の運動や体調不良時にアレルギー症状がでないか



## 4.少量ずつアレルギー食品を摂取している児

医師の指示でアレルギー食品を少量ずつ  
摂取している児がいる

- 登園（校）前にアレルギー食品を摂取している場合もあるが、大丈夫なのか
- 親が共働きで摂取が夜や休日になる場合、症状の観察や症状出現時の受診に困る



- 朝摂取すると、施設で症状を起こしうる時間なので、**基本は避ける**
- もし摂取する場合は施設に伝える
  - アレルギー記載のある表を連絡ノートに作り、摂取した場合は記載してもらうようにしている施設もある
- 年齢があがると習い事や塾、部活で摂取後2-3時間安静にできる時間が夜or早朝しかないことがあるので、症状が出た場合の対応を確認しておく



## 5. 救急車を呼ぶことへの躊躇



どの程度で救急車を呼んでいいのが先に保護者や病院に連絡した方がいい？

- 食物アレルギー症状の**中等症以上なら救急車を**
- オーバートリアージでも問題ない
- アレルギー対応マニュアルに沿い、普段からトレーニングしておく
- 誤食を予防していても防ぎきれない、また施設内での初発例もあるため、施設はアレルギー児がいなくても、全職員で共通認識をもって、アレルギー症状への気付きと対応を想定した訓練などを定期的に行う必要がある



## 5. エピペン®を打つことへの躊躇



### エピペン®を打つのをためらう

- アナフィラキシーでないのに打っても大丈夫？
- 施設で症状が起こった場合、エピペン®を打つ前に保護者に電話確認をすべき？

- エピペン®を処方されている  
= アナフィラキシーが起こる可能性があることを念頭に
- 救急隊や病院でしてもらおうではなく、エピペン®を預かった段階で自分(施設)で打つ気持ちを持つ
- 保護者と緊急時には現場の判断で打つことも含めた対応をお互いに確認しておく(主治医も含めた場で保護者と一緒に対応を確認するのが望ましい)
- アナフィラキシーでなく打ったとしても大きな有害事象が起こる可能性は低い(病院は受診しましょう)、それより躊躇して重症化するより、**迷ったら打つ**



# アドレナリン自己注射（エピペン<sup>®</sup>）使用が遅れる理由

- ① アナフィラキシーと認識できていない
- ② 重症度を甘く判断してしまう(咳払いでも敏感に)
- ③ 以前のエピソードから今回も軽く済むと期待してしまう
- ④ 抗ヒスタミン薬や気管支拡張薬吸入へ過度に期待してしまう
- ⑤ 針や注射が怖い
- ⑥ アドレナリンの副作用が心配

Sicherer SH, et al. Pediatrics 2007;119:638-46

**理解があれば迷わない！  
正しい知識を持ちましょう！**



**この会に参加していただき、貴重な御意見を賜りました  
学校、園などの施設関係者の皆様、医療関係者の皆様、  
消防隊の皆様、行政担当の皆様に深謝致します。**

神戸市立医療センター西市民病院小児アレルギーチーム  
2018年11月